

## 症例1

### 引っ越しで悪化した急性腰痛(ぎっくり腰)

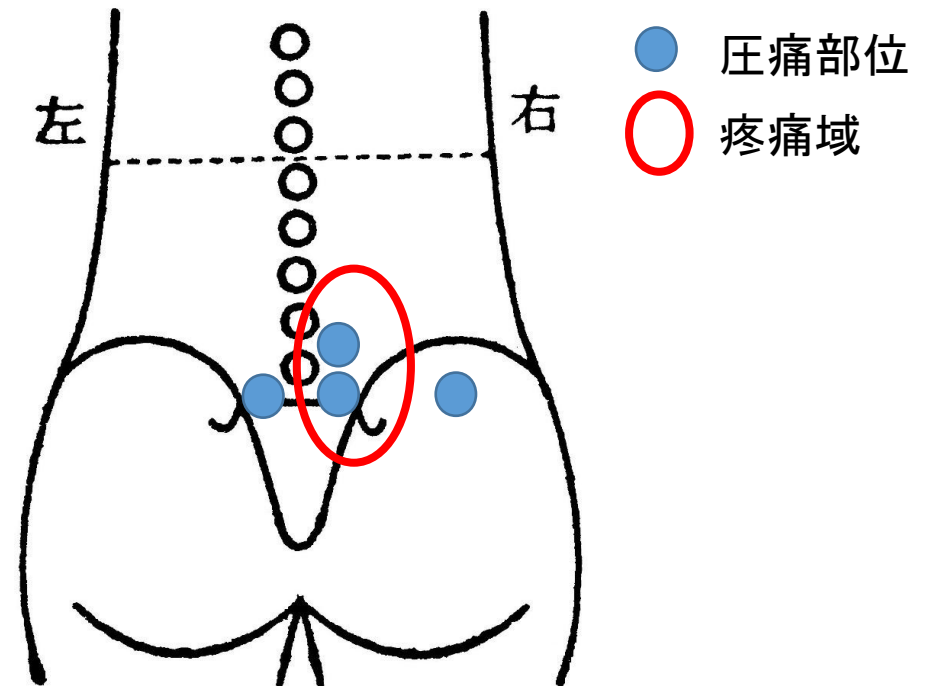
症例: 33歳 男性 ホームヘルパー

初診: 平成X年1月26日

主訴: 右腰の痛み

8か月前に現職に就いたころから慢性腰痛があった。3日前に引っ越し作業中に右腰部に激痛が走りその場で動けなくなった。以降仕事は休んでいるが、痛みの程度はあまり変わっていない。

診断: 発症状況、症状や疼痛部位、診察所見から、腰椎椎間関節ねん挫による急性腰痛と診断した。



14日間、計8回の鍼灸治療で愁訴は緩解した。

# 症例2

## 土木作業で発症した左腰痛と下肢のシビレ

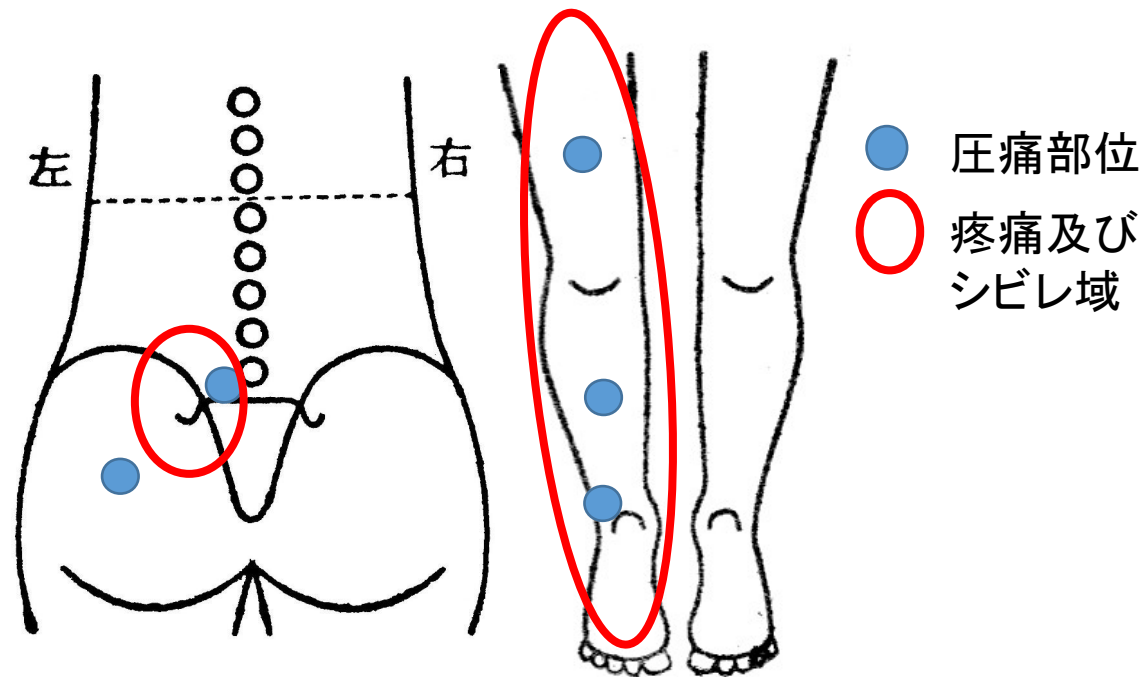
症例: 34歳 男性 土建業

初診: 平成X年4月6日

主訴: 左腰の痛みと左足のシビレ

10年前に腰椎椎間板ヘルニアで入院の既往がある。今回、半年前から強い左腰痛が再発し、左下肢の神経症状も出現した。病院で硬膜外ブロック注射を受けたが改善せず、鍼灸院に来院した。

診断: 年齢及び疼痛部位、診察所見から、腰椎椎間板ヘルニアによる坐骨神経痛と診断した。



25日間、計10回の鍼灸治療で緩解した。

# 症例3

## 早期の治療開始が奏功した五十肩

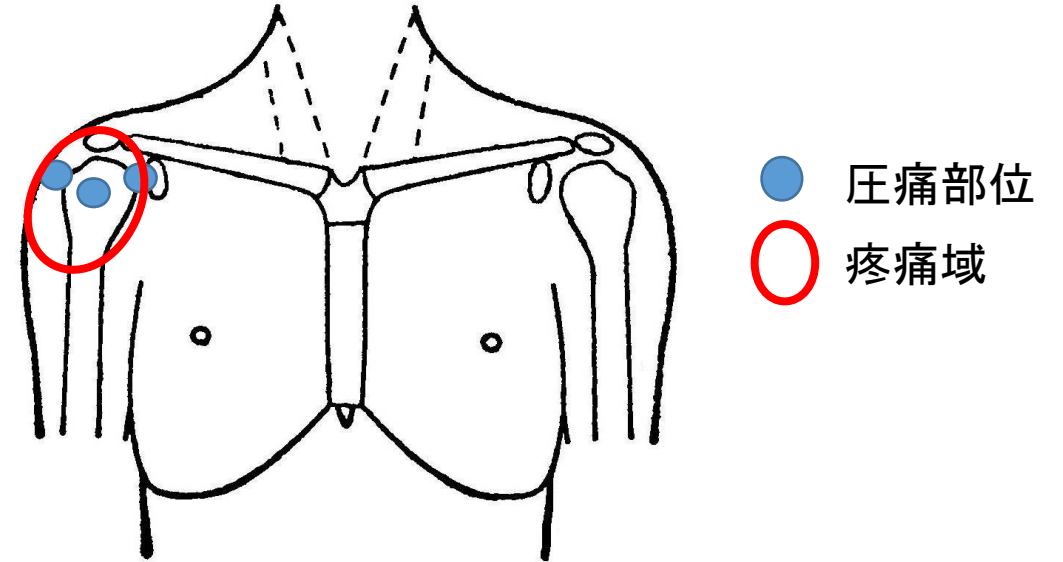
症例:50歳 男性 税理士

初診:平成X年7月3日

主訴:右頸から肩にかけての痛みと右腕が上がらない

10日ほど前に家の引越しで重い物をたくさん運んだせいで右肩が痛くなった。2日後から腕が上がらなくなり、整形外科を受診したがX線上は問題ないと言われ、1週間痛み止めを服用したが変化がないので来院した。

診断:年齢、運動制限、診察所見、圧痛から、五十肩と診断した。



176日間、計20回の鍼灸治療で緩解した。五十肩は通常2年近く治療期間を有するが、きわめて早期に治療を開始できたことが短期間、少ない回数で緩解せしめたと考察する。

# 症例4

## 階段を踏み外し悪化した変形性膝関節症

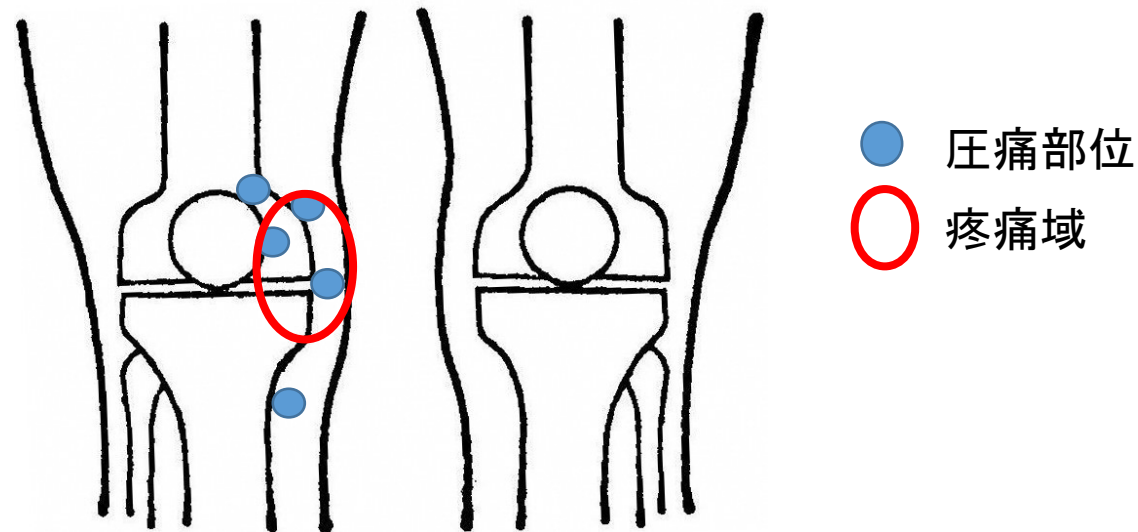
症例:57歳 女性 主婦

初診:平成X年8月3日

主訴:右膝内側が動作時に痛い

身長160cm、体重48kg。3か月前から特に誘引なく右膝内側が軽度痛むようになった。1カ月半前に階段を踏み外して以来痛みが強くなった。整形外科では老化からくる軟骨の摩耗と言われ、特に処置は受けておらず湿布とサポーターをしている。

診断:症状、問診初見、診察所見から、変形性膝関節症と診断した。



34日間、計18回の鍼灸治療で、右膝蓋骨圧迫テストは陽性だが圧痛所見はすべて陰性となり、経過は良好である。治療は継続中。

# 症例5

## 突然発症した頸から上肢の痛みとシビレ

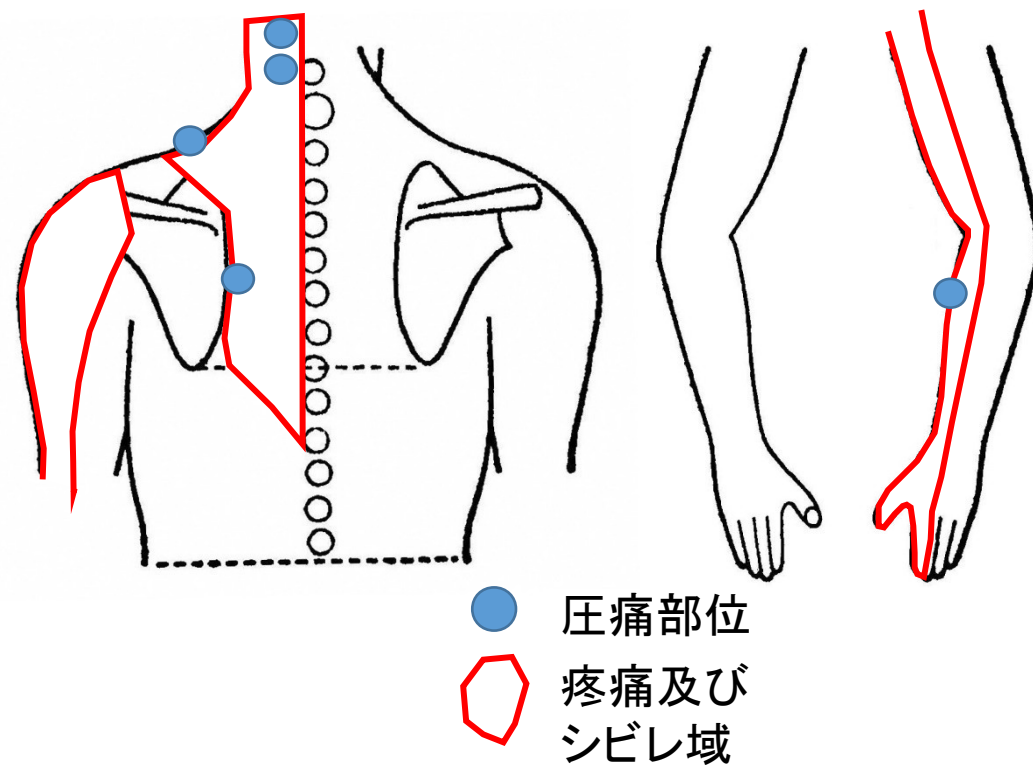
症例: 50歳 女性 パート

初診: 平成X年11月27日

主訴: 左頸肩部の痛みと上肢のシビレ

1月前、夜テレビを見ている時に首から肩にかけて痛み出し、次の朝からは上肢へもシビレが出てきた。この間20回ほど接骨院でマッサージと電気治療を受けたが改善しないので来院した。現在頸の運動による愁訴の誘発がある。

診断: 現病歴、診察所見から、C5・C6神経関与の頸椎症性神経根症と診断した。



10日間、計3回の鍼灸治療で愁訴は緩解した。

# 症例6

## 職場復帰ができたうつの症例

症例: 48歳 男性 小学校教員

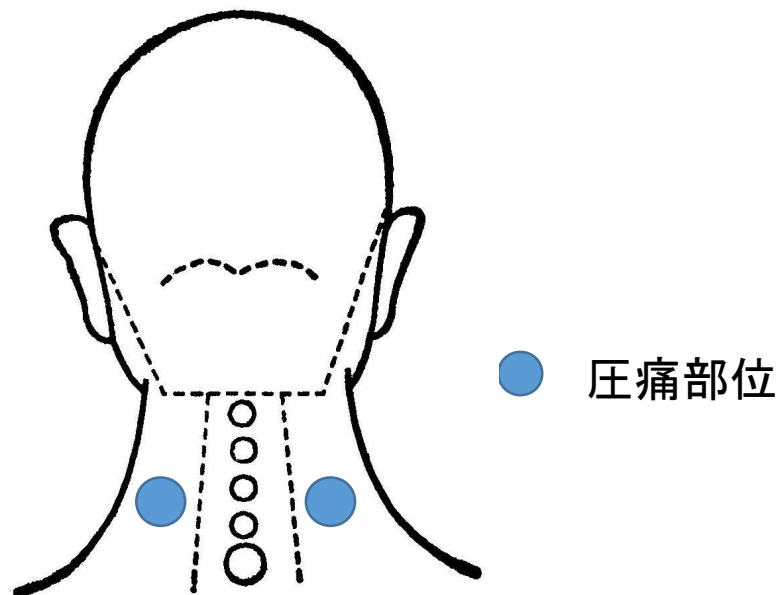
初診: 平成X年4月7日

主訴: 体がだるい、やる気がでない

昨年、大学院通学と修士論文提出にかなり根をつめた気がする。それに加え新しい勤務先で人間関係に苦しんだことが原因と考えている。近くの病院でうつの診断を受け、抗うつ剤が処方された。

診察所見: 頸部の異常緊張と体全体のむくみ(水分の体内貯留)を認める。

診断: 本症例は臨床症状、発症状況からうつと診断した。



381日間、計30回の鍼灸治療で症状は緩解し、職場復帰を果たした。自律神経失調による症状と酷似していたため、頸部の圧痛軽減とむくみの改善による自律神経症状の安定化が奏功したと考察する。

# 症例7

## 産後うつと診断された一症例

症例: 40歳 女性 会社員

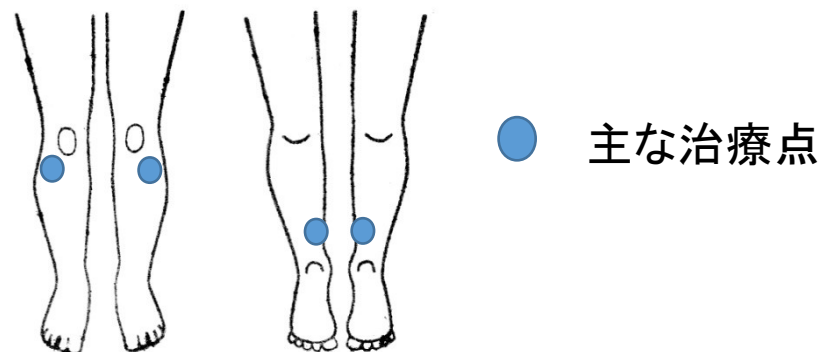
初診: 平成X年9月11日

主訴: 気分の落ち込み

36歳で初婚、その半年後から不妊治療を始めた。今年4月に初めて妊娠が確認されたが、7月末に流産。8月末から強い不安感、吐き気に襲われよく眠れない。精神科で産後うつと診断され、抗うつ剤が処方された。現在症状は落ち着いている。

診察所見: 身長164cm、体重46kg。頸肩部は硬く、皮膚は全体的に緊張感が診られる。

診断: 情動の愁訴、喪失体験などにより軽度のうつと診断した。



28日間、計4回の鍼灸治療で症状は緩解した。DSM-IVうつ診断基準のうち、2週間以上の観察期間を経ずして治療は開始されたが、症状は軽度うつであると判断した。鍼灸により自律神経系と精神の安定が図れたものと推察する。